



2016年国際航空宇宙展の開催に向けて

当工業会は来年の10月に国際航空宇宙展（JA2016: Japan Aerospace Exhibition 2016）を開催致します。2016年は名古屋地区にて開催された前回JA2012から4年目にあたりますが、今日に至るまでの間に当工業会内の企画小委員会及び実行委員会の委員各位による討議を経て、本年4月1日より出展募集を開始する段階となりました。

次回JA2016は既に本誌にてご案内のように、ビジネスに特化する展示会を狙いとして16年ぶりに東京にて開催致します。

開催に当たっては会場を提供する東京ビッグサイト(株)との共催事業として、会場管理及び運営等については当該社の経験と知見を活かすべく現在、各種の企画が進行中です。

当展示会は、1966年11月航空自衛隊入間基地にて開催された東京航空宇宙ショーを第一回として、前回に至るまで13回開催の歴史を作ることができました。

この間に発展した我が国の航空機産業は今日では産業規模において世界の6番目に位置するまでに至りました。

この歴史とともに歩んだ国際航空宇宙展も参加企業数の増大とともに発展し、前回JA2012では32カ国及び地域、636社（うち海外企業199社）の参加を得て、両者とも過去の最大数を記録することとなりました。

特に前回初めて海外の専門会社に委託して導入した商談会（B to B meeting）運営システムは幸いにも海外企業からは好評を得て、「海外の市場を日本に持ち込む」という狙いは達成されたものと自負しております。JA2016においても同様のシステムが活用されます。

昨今、航空機産業は国籍を超えた多くの企業群が連携して参加する形態が広がっており、海外企業はサプライチェーン戦略の最適解を求め適切なパートナーを探しています。特に我が国企業の有する技術力は高く注目されており、海外企業は我が国企業との接点を模索しております。

また、国内で成長の期待される産業クラスター

については航空機分野では地方自治体を中心に既に40近くのグループが育っており、国内外での事業拡大の機会を模索しております。

一方、昨今の世界の航空宇宙展は製造分野のみならず、ソフトウェア、ITソリューション、研究開発、教育・訓練等の支援サービスに至るまで参加範囲が拡大しており、航空宇宙産業が社会インフラの一部として、さらに発展することを示しています。

JA2016は、従来は業種の違い等により参加を見合わせていた当工業会の会員企業各位に対してもネットワーク造りの最適な場を提供できるものと確信しています。

昨年4月、新たな原則が決定された防衛装備品等の輸出政策については、本年夏以降に予定されている防衛装備庁（仮称）の発足に伴い、これまで以上に政府間あるいは産業間の国際協力の推進が見込まれており、本展示会に向けて外国政府・海外企業から高い関心が寄せられています。

宇宙分野では本年1月、新たな宇宙基本計画が決定され、新しい10年に向けて我が国宇宙機器産業が国際協力のもと海外へ販路を拡大することが期待されています。

米国の著名な政治学者であるリチャード・J・サミュエル氏はその著書「富国強兵の遺産」において、敗戦によって一旦は潰えた我が国の航空機産業が大手企業から下請企業に至る縦糸と大手企業間の連携による横糸によって、他国に例を見ない独自の復活を遂げたと高く評価しています。

今日の状況を鑑みると、国内企業間のサプライチェーンを繋ぐタテ糸と国際協力によるヨコ糸により我が国航空宇宙産業はさらなる発展を遂げ、近い将来の基幹産業となる機会が到来していることを暗示しています。

国際航空宇宙展（JA2016）はタテ糸とヨコ糸を繋ぐ絶好の機会を提供します。

この場を借りて会員企業各位の積極的な参加を切に期待するものであります。